

単元名

なつと なかよし

教科書 上巻 p.38 ～51 単元の配当時間 7時間／活動時期 6 ～ 7月

単元の目標

夏の自然と関わる活動を通して、夏の特徴や夏と春との違いを見付けたり、夏の遊びを工夫して考えたりして、夏の自然のようすや季節によって生活のようすが変わることに気付くとともに、友達と仲良く遊んだり、自分の生活を楽しくしたりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
なつに どん <span></span> な あそびが できるかな？（1時間） 幼児期や日常生活での体験をもとに自分 が知っている夏の自然のようすや夏の遊 びを振り返り、夏の自然の特徴を予想し たり、してみたいことを考えたりして、 夏探しや夏遊びへの意欲を高めることが できるようにする。	態	幼児期や日常生活での体験を振り返りながら、夏の自然の特徴を 予想したり、してみたいことを考えたりしている。	「保育所では夏になるといつも泥団子を作っていたよ」や 「幼稚園でアサガオの花を使って色水作りをしたよ」な ど、自分の経験や知識に基づいて夏の季節について考え、 それを友達に進んで伝えている。	●ペアで話す時間を設けたり、写真を見ながら発表したり するなど、考えを手助けする活動を入れる。 ●自分の今までの体験を振り返るような声かけを行う。 ●友達の体験や友達が紹介してくれた夏の季節特有のもの や事柄について自分の体験と比較させて、自分もしたこと がある、テレビで見たことがあるなどのイメージが膨らむ ようにする。
なつの こうていに でて みよう（1時間） 諸感覚を生かしたり、春の校庭のようす と比べたりしながら夏の校庭を探検し、 夏の校庭の自然のようすや特徴、季節の 移り変わりに気付くことができるように する。	知	夏の校庭の自然のようすや特徴、季節の移り変わりに気付いてい る。	「鉄棒を触ると熱くてやけどをしそうだよ」や「桜の花が なくなってしまったけれど、緑の葉っぱがたくさん増えた ね」など、春の校庭との違いについて気付いている。	●春の校庭のようすを思い出すことができるように、写真 や自分がかいた記録カードなどをもう1度見るように促し て、どこが変化したのかを考えられるようにする。
	思	諸感覚を生かして、夏の特徴や春と夏との違いを見付けたり、考 えたりしている。	「春はチューリップが咲いていたのに、今はヒマワリが咲 いているんだね」など、春の校庭のようすと比較しなが ら、夏の特徴や春と夏との違いを具体的に見付けたり、考 えたりしている。	●校庭を探検する前に「見たこと」「聞いたこと」「触っ たこと」などと視点を与えるようにする。 ●夏の特徴を見付けられない子どもには、友達や教師と いっしょに活動するように支援する。

単元の評価規準

●知識・技能

夏の自然と関わる活動を通して、夏の自然のようすや季節によって生活のようすが変わることに気付いている。

●思考・判断・表現

夏の自然と関わる活動を通して、夏の特徴や夏と春との違いを見付けたり、夏の遊びを工夫して考えたりしている。

●主体的に学習に取り組む態度

夏の自然と関わる活動を通して、友達と仲良く遊んだり、自分の生活を楽しくしたりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<b>なつの あそびを たのしもう（3時間）</b> 身近な自然や夏の特徴を生かしながら、夏の遊びを工夫して考え、友達と仲良く遊ぶことができるようにする。	知	遊びの楽しさや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。	「水鉄砲はただ飛ばすよりも、みんなで競争したら楽しいね」など遊び方を工夫する楽しさに気付いたり、「シャボン玉はふき方を変えることで大きさが変わるよ。面白いな」など特性を生かして遊ぶ楽しさに気付いたりしている。	●友達の発表を聞きながら、どんな工夫をするとより楽しくなるか、いっしょに考えられるようにする。
	思	予想したり、試したりしながら、遊びに使う物を作ったり、遊びを工夫したりしている。	自然の不思議さや面白さを生かして、水鉄砲を遠くに飛ばすための飛ばし方や穴の大きさを考えたり、シャボン玉が上手に飛ぶ向きや大きなシャボン玉を作るコツなどを考えたりしながら工夫して遊んでいる。	●子どもたちが遊んでいるようすを教師が写真や動画で撮影し、試行錯誤による変化がわかるようにする。 ●困っていることやうまくいかないことなどをクラスで共有する場を設定する。
	態	夏の遊びを楽しみたいという思いをもって、夏の自然と触れ合ったり、友達と関わりながら遊んだりしようとしている。	自分だけが楽しむのではなく、気付いたことや上手にできるような工夫を友達に教えたり伝えたりしながら、夏の季節を生かした遊びに進んで取り組んでいる。	●1人で遊んでいる子どもには、同じような遊びをしている友達に声をかけ、いっしょに活動できるような場を作る。
<b>おきにいりの なつをつたえよう（1時間）</b> お気に入りの夏を伝える活動を通して、夏の自然を生かして遊ぶ楽しさやよさに気付くとともに、これからも身近な自然や季節の特徴に応じて楽しく生活しようとしてできるようにする。	知	季節によって生活や遊びが変化することや、夏の自然を生かして遊ぶことの楽しさやよさに気付いている。	夏の季節の不思議さや面白さについて自分の体験をもとに伝えたり、友達の発表を聞く活動を通して自分では気付かなかったことにも気付いたりしている。	●子どもの発言内容を黒板で仲間分けしたり、春との違いがわかるように示したりすることによって、自然の面白さや不思議さについて気付かせるようにする。
<b>～もう すぐ なつやすみ～ これまでを ふりかえろう（1時間）</b> 入学してからの学校生活や活動、行事、学習を振り返る活動を通して、楽しかったことやできるようになったことがたくさんあることや、学校生活に慣れてきたことなどを実感し、1年生になった自分の成長に気付くことができるようにする。	思	入学してからの学校生活や活動、行事、学習を振り返り、楽しかったことやできるようになったことを付せんにかいている。	これまでの出来事を振り返り、自分の成長だけでなく、友達の成長やよさについても考えて、積極的に伝えている。	●入学してからの学校生活や活動、行事、学習のようすを撮影した写真や動画を用意して、そのときのエピソードを思い出しやすくする。 ●ひらがなが定着していない子どもには、教師が聞き取りながら文字に表してなぞらせたり、絵で表現させたり、写真を活用させたりする。